令和7年度第1回 岡崎市こども発達センター関係機関連絡会議 会議録

日時	令和7年7月29日(火) 14:00~15:30
会場	こども発達センター 体育館棟 研修室
出席者	岸本美紀、花田直樹、大賀肇、楢原翔、山本司将、世古裕子、塩沢美穂子、
(敬称略)	平岩ふみよ、内藤智宣、吉川徹、塩谷典子、小山岳彦 計 12 名
欠席者	
(敬称略)	なし
傍聴人	1名
事務局	障がい福祉課:髙橋課長、健康増進課:青山課長、近藤係長
	保育課:勝瀬課長、こども家庭センター:鈴木センター長
	こども発達センター:辻センター長
	こども発達医療センター:福本所長
	こども発達支援センター:加藤所長
	こども発達相談センター:大須賀所長、藤野、石原、小林、小早川
	※幸田町福祉課 1名(井手主任主査)
議題	早期発達支援システム評価指標による令和6年度の評価
	来年度以降の評価指標等について
内容	挨拶 (発達センター長 辻)
	この4月からこども発達センター長を務めさせていただくことになった。こども発達
	センターの事業を開始したのは2017年、その後岡崎市でも少子化が進んでいる。幼
	児教育保育の無償化、放デイの増加、合理的配慮の義務化など子どもたちが育つ環
	境にも大きな変化が起こっている。 前センター長である早川先生が初期構想から当
	センターを構築された。良い点は継承し、変えていく部分は変えながら運営していき
	たい。岡崎市の子どもたちのために御意見をいただきたいので、御協力よろしくお願
	いします。
	 出席者の紹介(新規出席者のあいさつ、各委員からの自己紹介)
	【楢原委員】三河青い鳥医療療育センターに来て4年になる。神経発達症の診療に関
	わっている。
	 【吉川委員】長らく愛知県心身障害者コロニーで児童精神科医をしていた。この度、西
	三河福祉相談センターに異動したので、挨拶もかねて参加させていただいた。
	議題 早期発達支援システム評価指標による令和6年度の評価
	・資料1「早期発達システムの目標及び指標」について
	事務局(健康増進課 青山、相談センター石原)から説明
	【塩沢委員】レインボーの会(再健康診査)からにこにこきっず1(健診事後教室)に行っ
<u> </u>	ı

た子は減っていて、地区担当保健師のフォローが増えていることとして、保護者の就 労や、個別の支援を希望している方が増えていると説明があったが、どのような支援 を希望しているのか。

【健康増進課 近藤】必要な方には、にこにこきっず1を案内はしているが、就園していることを理由に行けないという人もいる。にこにこきっず1は来所する形になるため、交通手段等の困難さがあり参加できないという家庭もあり、そういった場合は個別で地区支援をしている。

【塩沢委員】保健師が、個別で家庭訪問して支援する人が増えているという認識でよいか。

【健康増進課 近藤】多くいるわけではないが、にこにこきっず1に来られない方は概 ね個別対応となる。

【楢原委員】レインボーの会から直接親子療育に紹介されるのでなく、にこにこきっず 1に紹介になるのか。

【健康増進課 近藤】レインボーの会で、療育が必要と判断した気になるお子さんは精密検査目的で市民病院に紹介され、それ以外で気になるお子さんはにこにこきっず1に紹介する。レインボーの会では集団の様子は1回しか見られないので、にこにこきっず1で集団での活動を経験し、その様子も見ながら、スクリーニングをして療育が必要か判断している。

【楢原委員】精密検査は岡崎市民病院小児科の発達外来のみになるのか。

【健康増進課 近藤】岡崎市民病院に限定して紹介している。

【平岩委員】にこにこきっず1は保護者にとって集団遊びの様子を見られるチャンスになり、これは幼稚園に上がるときに大事だと考えている。地区担当保健師の支援で個別支援になると、他の子を見るチャンスが減ってしまう。自分の子を特化して考えてしまう。伝わりにくいところがあるので、集団経験の出来るにこにこきっず1は大切だと思う。

【健康増進課 近藤】地区支援は、今年度に関してはこども家庭センターで行っているが、昨年度までは健康増進課で対応していた。個別支援に関しては、保護者の状況も様々であり、保護者の特性などにも合わせて対応している。メンタル面で問題を抱えている方もいる。集団の場に通うことが難しい方もいるので、その方には親子での関わりについて個別で支援している。中には、子育て広場など他の遊び場に行かれる保護者もいるので、その時の様子を聞くことはあるが、個別支援の中で、集団における問題点などを把握し伝えていくことは難しさもある。

【塩沢委員】レインボーの会からにこにこきっず1に行く子がいろいろな理由で減っており、2~3歳の子にとって本当に必要な療育を通らずに就園・就学につながる子が増えていると感じている。その時期は通り過ぎるが、後になって親子共に辛い思いをされている。その時期に支援を拒否したり、難しい保護者に対して、何かこういう支援なら入れるのではないかという教えをいただきたい。

【医療センター 福本】レインボーの会に医師として関与しているが、保護者自身が集

団に対して拒否的なものがあったり、就労、車が無い、受け入れられないなど、いろんなケースがある。ただ保護者も心配はしており、個別の相談の希望はある方もいると思うので、個別の相談をコンスタントに行いながら、就園後に医療センターにつながる子もいるため、保護者の気持ちが向いたところで、次に繋げていく形でもよいと思う。寄り添う方が保健師だけだと業務的に難しいので、他にもそういう場所があるとよいと思う。

・資料2「こども発達相談センターの目標及び指標」について

事務局(相談センター 石原)から説明

【吉川委員】園巡回はプッシュ型ではなく園の巡回で、訪問支援は個別支援という理解でよいか。

【相談センター 石原】園巡回は発達センターの事業説明を行い、子どもの一般的な相談を受けている。訪問支援は保護者の同意を得て行う個別のケース検討や、架空のケースでの検討を行う形で実施している。

【吉川委員】両方の形があるのはとても良いと思う。

【花田委員】園医をしている中で気になるお子さんがいて、親が動けない人がいる。 園に来てもらい相談するのは、訪問支援に当たるイメージでよいのか。

【相談センター 石原】訪問する形での支援は様々あるが、相談センターが実施している訪問支援は、園からの希望を受け単発で実施している。園からもお子さんの情報をいただき、訪問してお子さんの様子を見た上で、どんな対応をするとよいか等を園の先生方と一緒に考え、アドバイスをしている。園で発達検査等をするわけではない。また、保護者へは園から伝えてもらっている。中には専門相談に来た方で、園でも心配されているという時に、事業の案内をするケースもある。

【花田委員】園も心配しているが、なかなか相談につながらない時がある。そのような時に園のスタッフが相談でき、それが保護者にも伝わり、受診につながればよいと思う。

【楢原委員】にこにこきっず2について、終了後の支援方法が特になしの方が 49%となっているが、支援がいらなくなった人が半分いるのか。

【相談センター小林】1年通っている間に次の支援につながっている人が約半数、終了時に支援状況が"特になし"の人が約半数となるが、かかりつけ医へ連絡票を送ったり、専門相談を紹介し、気になった時に相談するようお伝えして終了する人になる。 【医療センター 福本】年中、年長になって医療センターを受診する人もいる。

【小山委員】教育の専門的部分の研修として、学習支援の内容をお願いしている。研修はいろんな所でニーズがある。今後小中学校で研修が必要なら紹介していいものか。昨年度早川先生に講演していただいたが、今後どのような形で紹介させてもらうとよいか。

【相談センター 大須賀】昨年は、相談センターの教員 OB が講師として出席したものがある。発達障害だけでなくクラス運営のことも多いと思うが、ニーズとしては、講師として教員を経験している方か、専門職として医療職か、どちらかによって変わってくる。教育委員会に教員経験者で同様の講師の人材がいると聞いているので、教育委員会で講師ができる時には、内部で講師の人選をお願いしたい。発達障害や関わり方などで、適任の人材がいない時には相談していただきたい。

【医療センター 福本】医師について学校にニーズがあれば、講演会などは積極的に 行っていきたいと思っている。どこにオーダーしていただくかも含めて検討していき たい。

・資料3「こども発達医療センターの目標及び指標」について

事務局(医療センター 福本)から説明

【吉川委員】初診がスムーズに回っているのはすごいと思う。標準的な再診の間隔、再診時間、平均終診時期を教えてほしい。

【医療センター】標準的な再診間隔は最初のほうは3か月に1度。だんだん半年後、落ち着いていたら1年後など、その子に応じて設定している。だいたい3か月~半年が多い。1回の再診は基本30分。医療センターは就学前までが対象なので、終診時期は年長となる。最近は小学生に関してもニーズがあるのでフォローするようにしている。岡崎では発達協力医の方にも協力いただいているので、就学後やっていけそうな時にはかかりつけ医に戻させてもらい、必要な時に再紹介してもらい、対応している。

【吉川委員】再診も就学前までで、就学後は再紹介で受けるという形なんですね。 【医療センター 福本】重いケースは児童精神科や、投薬が必要なケースなどは市民病院で就学後もフォローしていることもある。

【楢原委員】サポートブックはとてもよいと思う。三河青い鳥医療療育センターでは初診30分、再診15分でやっている。こども発達医療センターと三河青い鳥医療療育センターは知的障害の有無で分けている。知的障害がしっかりあり、わかば・むつみなどの単独療育につながっている場合はよいと思うが、3分の2は保育園・幼稚園に通っていている状況で、サポートブックは作れていないのが現状。そういう子へサポートブックを作る支援はお願いできるのか。

【医療センター 福本】丁寧に支援できているのは、就学前までに対象を絞っていることが大きい。サポートブックはST(言語聴覚士)・OT(作業療法士)が関わる中で作っているので、どこまで対応できるかについては、即答しかねるが、この子はということであれば相談してほしい。

【楢原委員】ST・OT がやっているなら、三河青い鳥医療療育センターの ST・OT に相談します。

【吉川委員】サポートブックは1・2年経つとほとんど意味が無くなるので、最初作るの

は大事だが、作りっぱなしだと意味がない。更新はどのようにされているか。データはあるか。

【医療センター 福本】データは無い。サポートブックはST・OTが関わる中で作るが、 基本保護者が作り、ST・OTが修正している。その際に、今後は保護者が修正して、上 書きして支援先に渡していくよう伝えている。低年齢で支援が入った場合は、年長で もう一度作り直すようにオーダーしたり、小学校以上は保護者が自分でそのノウハウ を使って作る方はいるが、人数が多くないかもしれないので、そこは課題だと思う。

・資料 4 「こども発達支援センターの目標及び指標」について

事務局(支援センター 加藤)から説明

・全体を通してのご意見ご質問、情報提供

【小山委員】先ほどサポートブックの話が出たが、小中学校でみどりファイルを作成している。未就園の段階から18歳過ぎまで子の状況を綴じられるものになっている。今年度、どういうものを挟んでいくか検討している。そこにサポートブックなど入れていただけるとよいかと思う。教育相談センターに連絡していただければファイルをお渡しできるので、気軽にご連絡いただけたらと思う。

議題 来年度以降の評価指標について

【発達センター 辻】 2つ目の議題として、来年度以降の評価指標等についての改善点等ご意見をいただく予定だったが時間が無くなってしまったため、改善点や、加えたほうがよい、こうしたほうがよいのではないかというご意見があれば1週間以内を目途に送っていただきたい。そこを含め整理し、次回の会議に案を提示できるよう進めさせていただく。

~終了~

事務局

次回 開催予定

連絡事項

第2回 令和8年1月27日(火)午後2時~